**ハンドマイク街頭演説原稿例　第２次補正予算・コロナ対策**

二〇二〇年六月十二日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日は、この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　国の第２次補正予算案を審議した、先日の予算委員会で、日本共産党の志位委員長は、国民の切実な願いをもとに、以下の３点について具体的に提案しました。

　第一は、きわめて煩雑な雇用調整助成金の手続きを思い切って簡素にすることです。

新型コロナ危機のもと、雇用情勢はきわめて深刻です。ところが、雇用維持の命綱である助成金の支給はごく一部にとどまっています。事業者の申請手続きがあまりにも煩雑だからです。このまま休業者への手当が遅れれば、大量解雇、大量倒産は避けられません。雇用調整助成金は、ドイツのように、簡単な手続きで先に支給を行い、審査は後でおこなう。このような方法に思い切って転換するよう強く求めます。

　第二は、感染拡大の「第２波」に備え、検査体制を抜本的に強化してしていくことです。

埼玉県でも、県内に２０ヶ所を超えるＰＣＲセンターが立ち上がりました。しかし、いまでも、検査をうけられるのは、感染の疑いありと医師が検査の必要を認めた人と、その濃厚接触者に限られています。この間、医療・介護・福祉施設での院内感染が繰り返されています。医療・介護・福祉施設の関係者については、濃厚接触者だけでなく、無症状でもすべての関係者を国の責任で積極的に検査をおこなう。こういう方針を国は明確にすべきではないでしょうか。

　第三は、学校再開にあたって、一人ひとりの子どもの心のケアにしっかりと取り組むことです。

国の研究センターのアンケート調査でも、「コロナのことを考えると嫌だ」「最近集中できない」「すぐにイライラしてしまう」など、子どもたちの心の叫びが上位を占めています。子ども一人ひとりに寄り添い、心のケアを丁寧にするためには、何よりも教員を抜本的に増やさなければなりません。日本共産党は、すべての学校に教員を加配できるよう、全国で１０万人の新たな教員採用を、引き続き強く迫っていきます。その実現には、１兆円の予算が必要ですが、２次補正予算の予備費１０兆円の１割をあてれば、すぐに実現できます。教員が１０万人増えれば、２０人程度の授業を今後も続けられます。感染防止のため、教室での身体的距離を確保するためにも、教員の抜本的増員を強く求めていきます。

　みなさん、１５日から埼玉県議会６月定例会が始まります。新たな新型コロナ対策を盛り込んだ県補正予算案などが審議されます。２２日（月）・午後３時から、日本共産党県議団の一般質問がおこなわれる予定です。新型コロナ問題に関して、何かお困りごとがありましたら、お気軽に地元の党議員までお寄せください。

　最後に、日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」の購読をお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）